



Coca-Cola 2023 Suzuka 8 hours

2023 FIM世界耐久選手権
"コカ・コーラ" 鈴鹿8時間耐久ロードレース 第44回大会

- 三重県 ■ 鈴鹿サーキット ■ 1周= 5.821km
- クラス: EWC
- 8月2日(水): テストセッション
- マシン / BMW M1000RR
- 8月3日(木): 公式車検
- タイヤ / BRIDGESTONE
- 8月4日(金): フリー走行・公式予選1
- 8月5日(土): 公式予選2・TOP10 トライアル
- 8月6日(日): 8時間耐久 決勝

#44 関口 太郎 / 奥田 教介 / 出口 修

予選

17番手

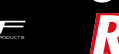
best: 2分08秒428
average: 2分08秒780

決勝

16位

207周

観客動員数: 42,000人 (4日間合計)



SANMEI Team TARO PLUSONEとして2回目の鈴鹿8耐を迎えた。2023年は、昨年に続き奥田教介を起用し、7月の事前テストから新たに出口修が加わった。出口はベテランらしく関口が作り上げたBMW M1000RRを、すぐに乗りこなすタイムも3人が、ほぼ同じペースで走ることができるようになってきていた。これは耐久レースでは大きな武器となっていた。また今回はドイツのアルファレーシングから



エンジニアのジュリアンを召喚。BMW M1000RRで2年目のシーズンを迎えているが、電気系のセッティングが進み、ラップタイムも昨年に比べると大きく縮めることができていた。

今年は、水曜日のテストセッションからレースウィークがスタート。木曜日の公式車検日をはさみ、金曜日はフリー走行と公式予選1回目が行われた。まずライダーブルーの関口からアタックし2分09秒249で組17番手。ライダーイエローの奥田も2分09秒395で続き、ライダーレッドの出口が2分09秒131とチームベストを記録していた。予選1回目は転倒が多く、アタックしている最中に赤旗が提示されてしまう場面も見られた。



を更新することはできなかったが予定通り。17番手グリッドから決勝はスタートすることになっていた。

ここまで順調にきていたが決勝朝のウォームアップ走行で出口が他車と接触。相手が転倒してしまったため決勝でライドスルーペナルティが課せられることがスタート直前に決まっていた。

スタートライダーは、今年も奥田が務めた。奥田は今回で5回目の鈴鹿8耐だが、いずれもスタートライダーを担当しており慣れたもの。序盤の混戦を落ち着いてこなし、ベ

ースが上がりなかったこともあり、関口は2スティント目でペースを上げ2分10秒台で周回。チームを引っ張る走りを見せる。これに感化された奥田は、ペースを上げ、出口は、雨が降ってきた難しい状況を的確に判断しポジションを上げていった。そして今年も関口がチェッカーライダーを務め最後まで攻めの走りで順位を上げていく。残り5周というところで1台をかわし17番手に浮上。そのまま207周をこなし17位でチェッカーフラッグを受けた。事後車検で失格になったチームがあったため正式結果は16位となった。



Team TARO 2度目の鈴鹿8耐参戦

スタートライダーは慣れていましたが、ペナルティがいつ出るか、見逃さないようにと神経を使いました。コースに戻ってからは自分のペースで走りましたが、意外に路面が汚れていたため慎重に走りました。2スティント目ではマイナートラブルもありましたが、関口選手がよいペースで走っていたので、ボクも負けじと頑張ろうとプッシュしていきチームベストを出すことができました。出口選手の雨での走りも痺れましたし、関口選手のナイトランでの2分11秒台もすごいと

思いましたし、一緒にレースができて光栄でした。マシンも、すごくいい状態だったので走りやすかったですし、Team TAROでレースができたことを関口選手を始めチーム、スポンサー各位に感謝いたします。ありがとうございました。

奥田 教介

土曜日の午前中に2回目の公式予選が行われた。ここでタイムを出すことを決めていた関口は2分08秒428までタイムを縮めチームベストを更新。奥田と出口は1回目のタイム

7月のテストからチームに合流させていただき鈴鹿8耐を Team TARO で走らせていただいたことを感謝いたします。チームの雰囲気もよく、根本的にバイクで走ることが好きという忘れかけていたことを思い出させてくれました。関口選手の作り上げた BMW M1000RR は、自

分の入力でも思ったように曲げることができる乗っていて楽しいマシンでした。雨が降ったときは雲の位置やレッドクロス、オイル旗などを確認しながらピットサインが出るまで走り続けましたが、結果的に正解だったので少しはチームに貢献できたと思います。応援ありがとうございました。

出口 修

ナルティに備えていた。予想より遅く10周過ぎにペナルティが提示され、ピットをライドスルー。当然ポジションは落ちてしまったが、そこから追いつけを始める。奥田にかわり出口が出ていくが、ウォームアップ走行での接触があったため、いつも以上に慎重に走っていたため、本来



のペースで走ることができていなかった。そして出口にかわり関口が1スティント目に出ていく。ここで電気系トラブルが発生。関口は走りながら何とか対処していたが、どうしようもない状態になったためイレギュラーのピットイン。原因は分かっていたため、各項目をチェックしてから奥田が2スティント目に入っていた。奥田、そして出口も

今年も鈴鹿8耐を戦えたことを支えてくださった皆さんに感謝いたします。特にメインスポンサーである三井電気工事は、昨年に続きライダーやスタッフが休めるプレハブをピット裏に設置してくださいました。SANYU様はピット上に看板を出稿してください、レースを盛り上げてくださいました。多くの皆様のご協力のおかげで、ドイツのアルファレーシングとのジョイントも実現できました。日本のいちプライベーターがアルファレーシングと仕事できたことは、日本のレース界にとっても大きな出来事だったと思います。レースは予選まで順調でしたが、決勝では想定外の事態も起き、さすが鈴鹿8耐は一筋縄ではいかないと思いました。Team TAROのスタンスでレースができたと思います。最後に一緒に走ってくれた奥田選手、出口選手、そして頑張ってくれたチームスタッフにありがとうと言いたいです。すぐに全日本ロードレース選手権後半戦が始まります。今回の経験を生かして上位を狙っていきますので、引き続き応援よろしくお願いします。

関口 太郎

